

[平成 15 年度普及に移す技術]

[普及に移す技術名] 肥育豚への屑大麦給与による低コスト化

[要約] 肥育豚の飼料中に屑大麦を 20%配合することで、市販飼料と変わらない発育・肉質成績を得ることが可能である。また、飼料費は肥育豚 1 頭当たりで約 620 円の低減が可能である。

[キーワード] 低コスト化、屑大麦、肥育豚

[担当] 福井県畜産試験場・中小家畜研究グループ

[連絡先] 0776-81-3130

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

産地間競争が激化するなかで、ふくいポークの生産においても低コスト化が求められている。しかし、養豚経営においては輸入飼料に依存しているため飼料費の低減を図ることは難しい状況にある。

一方、本県では転作作物として大麦が作付されており選別の段階で規格外の屑大麦が発生し安価で入手することができる。このため、この規格外の屑大麦を肥育豚の飼料に 20%の割合で代替えし発育成績、肉質成績、及び飼料費への影響を検討する。

[技術の内容・特徴]

- 1 屑大麦を給与した肥育豚では市販飼料のみを給与した肥育豚と比べ、同程度の発育をしめす(表 1)。
- 2 屑大麦を給与した肥育豚では市販飼料のみを給与した肥育豚と比べ枝肉成績では差はなく、肉質成績は加熱損失が少なく、背脂肪の融点も高くなる(表 2)。
- 3 大麦を給与することにより脂肪の品質を良くする飽和脂肪酸が高い値となる(表 3)。
- 4 屑大麦を給与した肥育豚では市販飼料を給与した肥育豚に比べ、増体 1kg 当たりの飼料費は約 14 円低減し、出荷 1 頭当たりの飼料費は約 620 円低減する(図 1.図 2)。

[技術の活用面・留意点]

- 1 給与するにあたっては粒のまま給与しても消化されないので粉碎処理をして給与する。
- 2 屑大麦の一般成分は飼料用大麦に比べ、粗タンパク含量がやや少なく、粗繊維含量がやや多いので配合に当たっては 20%以内とし、体重 60 kg 以降の豚に給与する。

[具体的データ]

表1 発育成績

区分	60~100 kg 日増体量(g)	飼料要求率
試験区	993.3±101.5	2.62
対照区	1008.6±66.7	2.54

(平均±標準偏差)

表2 肉質成績

区分	枝肉歩留 (%)	背脂肪 (cm)	加熱損失 (%)	脂肪融点(°C) 背脂肪内層
試験区	61.6±1.1	2.1±0.2	19.5±2.9	36.1±1.2
対照区	61.0±0.6	1.9±0.3	21.2±0.3	35.1±2.0

(平均±標準偏差)

表3 脂肪酸組成

区分	飽和脂肪酸 (%)	不飽和脂肪酸 (%)	不飽和脂肪酸/ 飽和脂肪酸
試験区	42.9±2.0	56.5±2.0	1.3±0.1
対照区	41.5±2.2	58.2±2.3	1.4±0.1

(平均±標準偏差)

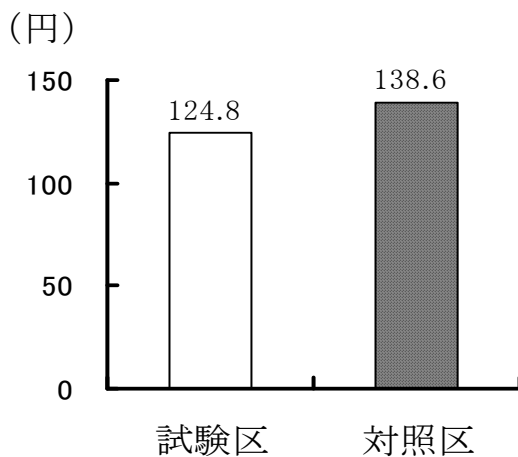


図1 増体1kgあたり飼料費の試算

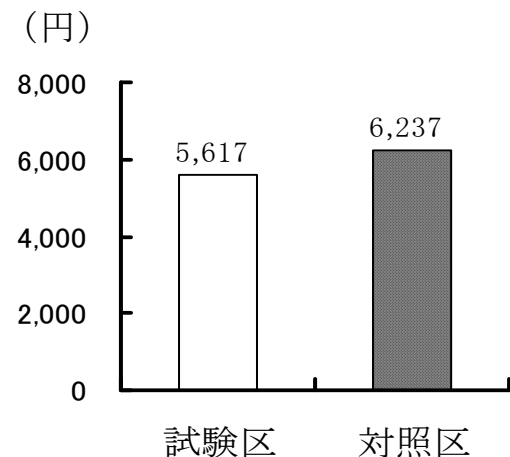


図2 出荷1頭あたり飼料費の試算

[その他]

発表論文等：北信越畜産学会報